

活動名 田んぼの楽校	団体名	広島市ネイチャーゲームの会
	地域	広島県廿日市市
	代表者	運営委員長 住吉 和子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>田んぼから自然を感じ、作物の育つ過程から動植物のふしぎに気づくことや、発見をとおり人間のもっている五感を鍛え、豊かな人間形成を図る目的があります。これら目的は、「田んぼの楽校」を開催し、田おこし、代掻き、田植え、田の草取り、動植物観察、山と海の関係活動、稲刈り、収穫祭などを行いながら体験を行ない、頭・体・肌・聴く・においなど、体全体で感じるものとしています。原体験を大切にしよう取り組んでいます。また、親子で体験をしてもらい、家庭内でのコミュニケーションを図るため、共通話題の提供や学校での話題提供などにも寄与するよう配慮しながら、取り組んでいます。</p> <p>◆実施時期：2009年4月19日～2010年1月17日 12回開催 主たる開催場所：広島市佐伯区五日市町下小深川「沖本氏の農地」約700㎡とその周辺、江田島市切串の海岸、広島市安佐動物公園</p> <p>◆参加人数：第一回春を食べよう！23名、第二回代掻きと泥んこ遊び24名、第三回田植えとネイチャーゲーム31名、第四回田んぼの楽校看板づくりと芋の植え付け30名、第五回田んぼの草刈りや交流会など39名、第六回江田島海の生き物観察33名、第七回案山子作りとそうめん流し33名、第八回稲刈り体験とはで干し体験36名、第九回脱穀体験とネイチャーゲーム38名、第十回芋ほりとネイチャーゲーム27名、第十一回餅つきとわら細工33名、第十二回動物園(自然とのつながり)50名 参加総人員 397名</p>		



《子ども達で草花料理中》



《機械による代掻き体験》



《案山子作成》



《刻んだ藁の中はどうか？》

#### ◆実施に伴う効果

活動組織としては、その効果どおりに参加者の反応が良かったことが最も成果となっている。  
また、一年を通し農業を体験することにより、農からもらうものの多さには、スタッフも含め参加者全員にもわかってもらうことができとても有意義な一年となった。  
特に五感をとおし感じるものが多く、情操教育の一環としての役割は果たせたとスタッフ一同感じているところである。  
また、海や山、動物など幅広く取り組み、多方面から自然を見つめなおすことができた。

地域への影響を確認することができなかった。理想としては、他の組織などのモデルケースとなるよう取り組んでいる。

#### ◆苦勞した点

特に問題なく、当初どおりの計画で実行することができた。  
ただし、スタッフについて農業者が少ないため、知識のあるスタッフには苦勞をかけていた。  
雨などは、自然現象の一つであるので、特に問題なく実施できた。  
外部へのPRは極力控えることにした。理由としては実施農地規模に限界があるためとあわせ、スタッフの対応が不可能であるため。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

現在田んぼの楽校は、5年目が終了したところであり、参加者も居残り組が多い。このことから、参加者の入れ替えを行い、広く市民が楽しめるよう配慮する必要を強く実感している。(基本は小学校低学年とし1年生～3年生としている)  
また、一部マンネリ化しているところもあり、農作業とネイチャーゲームを組み合わせることが理想であるが、今回もなかなかスタッフ不足のところもあり、難しいところとなった。  
引き続き多くの人達が田んぼを通し、農業の楽しさ、自然の不思議に沢山触れてもらえるよう進めることとしたい。  
また、マンネリ化している部分については、スタッフ不足のところもあり、農業担当者、ネイチャーゲーム担当者と明確にし、それぞれ一日の中での活動を明確にすることを新年度で実践する。  
あわせて新しいスタッフによるプログラムの再編を行うことを計画している。  
発展の方向性では、地域活動とまでもいなくても、可能性は未知数であり、継続していくことが地域を含めた周辺住民の理解を得ることができると考えている。また、学校教育のなかでもネイチャーゲームは普及しつつあることから、農業をとおした教育の現場としても活用してもらえるよう取り組みたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

一年をとおした活動はとても大変ではあるが、充実感があります。  
また、農をとおし豊かな人間形成はもとより、田舎にふるさとが無い子ども達にとっては、プチふるさととなったものと感じています。

今回は、ご支援いただき大変たすかりました。ありがとうございました。